

自律型無人探査機（AUV）戦略プロジェクトチーム

趣旨

- 自律型無人探査機（AUV: Autonomous Underwater Vehicle）は、自ら状況を判断して全自動で水中を航行するロボット。
- 海洋資源開発、洋上風力発電、海洋安全保障等における省人化や海の可視化等を実現。
- 総合海洋政策本部参与会議にAUV戦略プロジェクトチーム（PT）を設置し、AUVの国産化・産業化に向けた戦略（AUV戦略）の策定に向け検討。

構成

○ 総合海洋政策本部参与

原田 尚美（主査） 東京大学大気海洋研究所教授
井上 登紀子 東京海上日動火災保険株式会社執行役員
岩並 秀一 三菱重工業株式会社顧問
坂本 隆 深田サルベージ建設株式会社常務取締役
佐藤 徹 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
中田 薫 国立研究開発法人水産研究・教育機構理事
西村 弓 東京大学大学院総合文化研究科教授
村川 豊 株式会社NTTデータ特別参与

○ 有識者

高木 健 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
中谷 武志 国立研究開発法人海洋研究開発機構海洋ロボティクス開発実装グループグループリーダー代理
藤原 敏文 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所研究監
山本 郁夫 長崎大学副学長
吉賀 智司 株式会社FullDepth代表取締役社長CEO

○ 関係府省庁

内閣府（総合海洋政策推進事務局、科学技術・イノベーション推進事務局）、
文部科学省、経済産業省、国土交通省、海上保安庁、環境省、防衛省

スケジュール

- 第1回PT（1月23日）
 - ・ AUVに関する関係府省の取組
 - ・ 海洋産業タスクフォースによる検討
- 第2回PT（2月27日）
 - ・ AUVに関する民間、アカデミアの取組
 - ・ 海洋研究開発機構による検討
- 第3回PT（3月29日）
 - ・ 中間とりまとめについて
- 中間とりまとめ公表（4月上中旬）

- 中間とりまとめ（AUV戦略の方向性）を踏まえ、令和5年度もPTを開催し、AUV戦略の素案を作成



令和5年度にAUV戦略を
総合海洋政策本部決定

中間とりまとめ（AUV戦略の方向性）

- ・自律型無人探査機（AUV）は、自ら状況を判断して水中航行するロボット
- ・海洋資源開発、洋上風力発電、海洋安全保障等において**省人化**や**海の可視化**等を実現
- ・AUVの**国産化・産業化に向けた戦略**を策定



AUV戦略の方向性

1. 官民プラットフォームの形成

産学官連携による**枠組み**を構築し、AUV戦略の詳細を検討。戦略策定後も民間や研究機関主体での技術動向共有、共通基盤の構築等の継続的な取組を実施

2. 将来ビジョンの作成

AUV **開発側と利用側が将来ビジョンを共有**した上で、市場開拓を行う分野を戦略的に検討

3. AUV技術マップの作成

我が国が**強みとする主要技術**を分析し、国産化に向けた戦略を検討

4. 共通基盤の構築

将来の規格化を見据え、官民連携の枠組みで、**部品やソフトウェアの共通化・互換性**を確保

5. 制度環境の整備

試験場、運用規範・ルール、知財、データの共有や管理

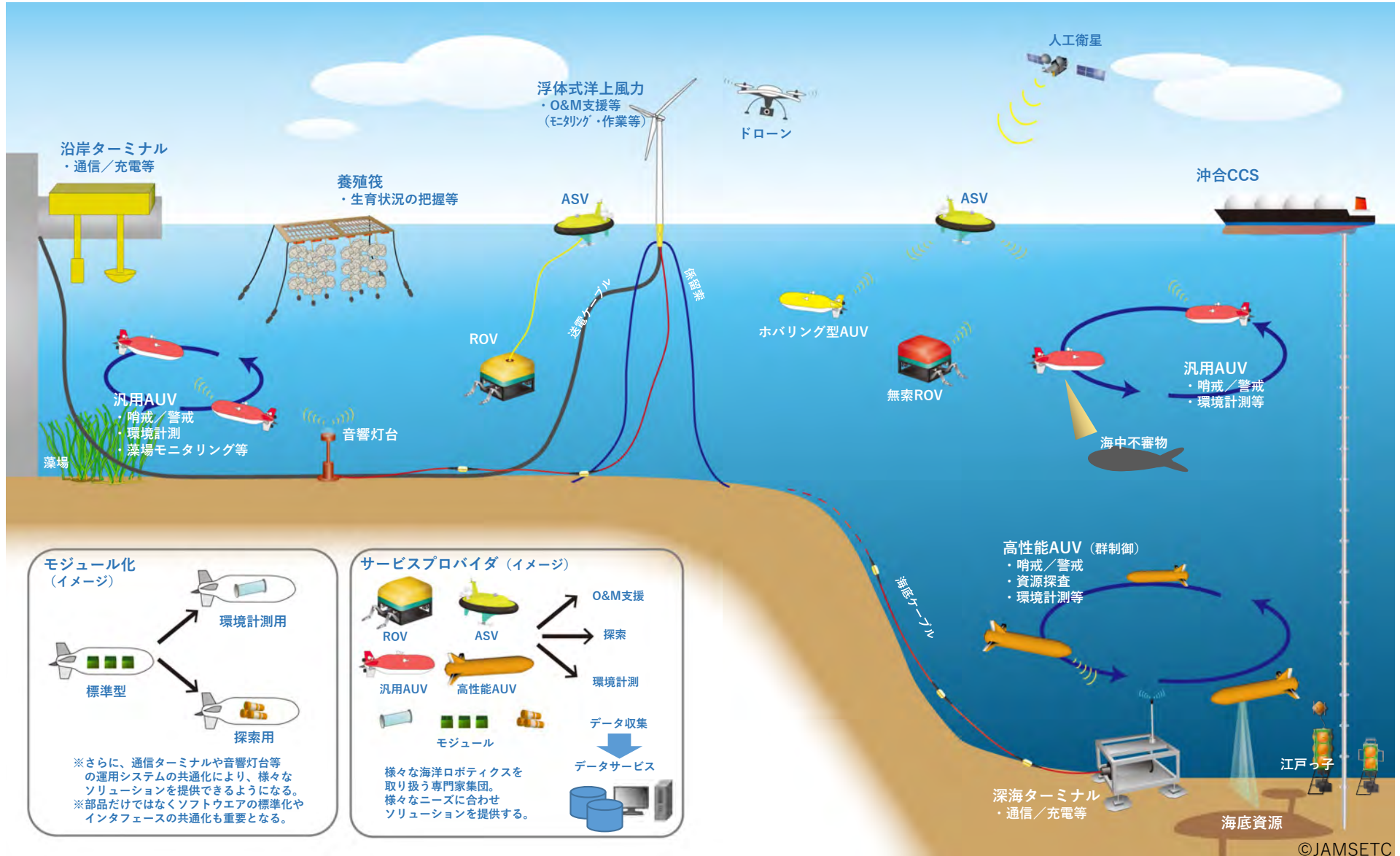
6. 企業活動の促進方策

サービスプロバイダの活用・育成、海外展開支援

7. 研究開発の推進

近い将来のAUVを含めた海洋ロボティクスの利用イメージ

民間や安全保障分野などでの利活用イメージを示す ⇒ AUVへの投資 (=産業化) に貢献



AUV戦略の検討スケジュール

令和4年度

令和5年度

